

駒澤書翰



第8号

発行日：
2023年10月1日
発行所：
株式会社エヌワイケー
〒154-0012
世田谷区駒沢5-7-6
電話：
03-3704-8391
FAX：
03-3703-7121
発行人：
横山和俊

所長のひとこと言 ―生成AI―

お世話になります駒沢新聞販売所、所長の横山です。毎月第3日曜日に折込していますこの「駒澤書翰」。
9月17日折込予定の第8号は私の体調不良で本日の折込となってしまいました。今後は予定通り毎月第3日曜日に折込しますのでお手すきの際お読み頂ければ幸いです。

9月も後半に入りやっと朝晩は過ごしやすくなってきました。それにしても今年の夏は殺人的な暑さでしたね。グテリス国連事務総長の「もはや地球温暖化ではなく地球沸騰化だ」との警鐘もうなずけます。気象庁の発表によると、東京都心は8月、31日連続で30度以上の真夏日を観測。1か月すべての日が真夏日となるのは観測史上初めてのことです。私以外にも体調を崩された方もいらしたのではないのでしょうか。今や地球温暖化による影響は世界各地で甚大な被害をもたらしています。日本も例外ではなく私も関連記事は必ず目を通すようにしています。ただ今号でご紹介する記事は別の問題です。こちらも私たちの未来に大きくかかわる問題です。今号は「生成AI」に関する記事のご紹介です。

気候変動と同じく私たちの未来に大きな影響を与えるであろうAI（人工知能）の話題も連日紙面をにぎわしています。多くの仕事がAIに取って代わると言われて久しいですが、生成AIの誕生によりクリエイティブな仕事にまで影響を与えるようになりました。そもそも生成AIとはユーザーが自然言語などのテキスト（文字列）による指示を行うと、それに応じてテキスト、画像、音声、動画などを新たに生み出すAIの総称です。チャットGPTに代表される生成AIが従来のAIとは本質的に異なるかのような言われ方をしていますが、大規模データ、深層学習を利用し予想を行うという基本的メカニズムは同じです。既存のAIは主に画像処理に関する技術が実用化されてきました。これは個別にシステムを構築する必要があり、利用できる人が限られていました。一方でチャットGPTの無料版であれば誰でも分野を問わず利用できる汎用性はこれまでにないAI技術です。さらに生成AIは「〜風」や「〜と指示をすれば、そのようなテキストのキャッチコピー、小説、絵画、動画にいたるまで瞬時に作り上げることができます。このように、AIが人間の創造性に関わると思われる部分にまで浸食してきていることに警戒を生んでいます。さて、こんな時世だからこその特集記事が組まれています。日経新聞では「テクノ新世」、毎日新聞では「デジタルを問う」です。この両特集記事に史上最年少の29歳で独ボロン大学の教授となり、現代思想に新潮流を生む「新しい実在論」の旗手として世界で最も注目されている哲学者、マルクス・ガブリエル氏のインタビューが取り上げられました。今号ではガブリエル氏への両紙のインタビュー記事をご紹介します。

まずは日経新聞の「テクノ新世」から。AIの驚くべき点は、我々の身の回りの環境に知性を与え、人間と相互作用する存在だという点。恐れるべきはこのAIという異星人の知性のような理解の及ばない存在を、我々自身が生み出したことだ。チェスや囲碁でAIがプロ棋士に勝利を収めたとしても、それは人間が生み出したゲームで機械が優れたプレーをしたにすぎない。AIにチェスや囲碁を発明することは不可能だ。機械は自立的には何もできない。ではAIの警戒とは何か。それは悪用だ。高度なテクノロジーを手にしたからといって、人間が倫理的な存在になるわけではない。人間の悪が増強され、独裁や犯罪などに使われる事態こそ恐ろしい。現代社会では全てが記録されている。検索・閲覧履歴が積み上がるデジタル空間。街中に設置された監視カメラ。人々の行動を捕捉しコントロールすることは、いつの時代も全体主義の夢だ。それが技術的に可能となる時代が近づいている。言い換えればテクノロジーは全体主義の担い手になったとみることもできる。これでは便利で人間を幸福にくれはするテクノロジーは無価値へと変わって

しまう。近代のテクノロジーの発展は多大な利益をもたらす一方、戦争や巨大事故などを引き起こし無数の人々を死に追いやった時代でもある。科学を万能とする考え方には生と負の面があることを忘れてはならない。今我々に求められているものは科学万能主義からの脱却だ。私は「人間的なテクノロジー」の発展を奨励している。人間はただ生き延びればよいという存在ではない。あらゆる技術(テクノロジー)は人間の利益に完全に沿うものでなければならぬ。人間の偉大さは科学的な知を生み出すことだけではない。我々の祖先が想像を絶する困難を乗り越えられたのは、人間が心の奥深くで神や精霊などの超越的な存在を信じ、より善く生きる努力をしてきたからだ。私は考える。我々には未来を守る義務がある。道徳的な真実を見つけ出しそれを実践しなくては行けない。

次は毎日新聞の「デジタルを問う」から。こちらも同じく「科学主義」へ警鐘を鳴らします。A-1が人間の知能をしのぐ「シンギュラリティー」(技術的特異点)の到来を否定し、むしろA-1使用により人間らしさを失う危険性を説きます。

チャットGPTを使ったり、インターネットに接続する時間が増えることで、限られた世の中の捉え方しかできないデジタルの枠組みに絡めとられる危険がある。A-1は人間を模倣しているが、そのA-1から逆に影響をうけることで、私たち自身の思考が「モデルのモデル」になるうとしている。以前からネット交流サービス(SNS)がもたらす言論のゆがみや、個人データを利用した巨大IT企業のビジネスモデルの弊害、国家によるデジタル監視の強化などに苦言を呈してきたが、生身の現実と、数学的な思考でモデル化したデジタル空間やA-1の思考モデルの枠組みとの間にしっかりと線引きをするために規制を設ける必要がある。欧州では、テクノロジーが人間の心に干渉することを許さずと、倫理に対する洞察が破壊されてしまうとする懸念がある。欧州連合(EU)がデジタル規制に乗り出すのは確かにデジタル市場が米国の巨大IT企業に牛耳られているという地政学的な理由もある。が、重要なのは伝統的な「ユーマニズム」(人文主義)に対する考え方だ。これに対して米国は功利主義の考え方が根付いている。「トロツクが左に行けば1人死ぬが、右なら50人死ぬ。どちらを選ぶか」などと問うこのような「トロツク問題」自体が米国でありがちな「功利的な議論」であり、倫理の本質から外れている。欧州の倫理は「人間一人一人に無限の価値を認める」もので、功利主義とは相いれない。哲学から学べる英知は「合理と非合理の間を埋めるもの」だ。科学と人文、物質と心といった一見相反するものをも包含した世の中をめざす。そして、それを形作る新たな倫理は、西洋中心でなく、異なる物事の捉え方をするあらゆる地域の文化の違いを受け入れた形で構築すべきだ。

2つの記事を読みまともにみてはみたものの難しい内容だと思っていました。特に印象に残ったのは、A-1に対して仕事を失うかもしれない、という恐怖もありましたが、それ以上に恐ろしいことは人間らしさを失ってしまうということ。しかし、人間らしさとはどういうことなのでしょう。普遍的で道徳的な倫理とは。ますます新聞や本を一生懸命読み込もうと思いました。とはいえA-1の問題は複雑です。国境なきA-1に規制をかけることはできるのでしょうか。引き続きこの問題も注目していきます。

「お薦めのお店」教えてくれたわさー。

駒沢販売所に赴任して早半年。だいぶこの地にも慣れてまいりました。そこでぜひお住いの皆様のお薦めの店を教えてください。和洋中間いません。B級グルメもオッケーです。ご紹介できるお店ございましたらe-mail (komazawa@nikkei-ns.com) またはFAX (03-5703-1111) でお知らせください。

- ① 「お薦めのお店」※住所もあれば助かります
- ② お薦めのメニュー
- ③ お薦めの理由